

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：スターチャイルド《大倉山ナーサリ ー》	種別：児童分野 認可保育所
代表者氏名：高橋 光代	定員（利用人数）： 63 名
所在地：横浜市港北区師岡町1184-1	
TEL：045-540-7050	ホームページ：http://www.starchild.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2019年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ヒューマンスターチャイルド株式会社	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 11名
専門職員	施設長：1名
	栄養士：1名
	事務員：1名
施設・設備 の概要	（居室数） 保育室6室
	（設備等） 園庭、給食室、乳児・幼児トイレ、 多目的トイレ、エレベーター、休憩・ 更衣室事務室兼医務室など

③理念・基本方針

【保育理念】 スターチャイルドは、子どもたちの無限の可能性を信じ意欲を引き出し、伸ばす保育を 実践します。
【保育目標・方針】
① よく考え、心身ともにたくましい子（自立と挑戦を支援します）
② 個性豊かな子（個性を尊重し長所を伸ばします）
③ やさしさと思いやりのある子（社会性＝人と関わる力を身につけます）

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>緑多い閑静な住宅街の中、園舎は小さな村の古民家をコンセプトに建てられ、縁側のよ うに長く張られたデッキや庭の植栽により自然に囲まれた落ち着いた環境を作っていま す。</p> <p>オープンスペースのフロアでは、遊びの中で異年齢交流が自然に生まれ、全職員が担当 クラスを超えて園児に関わっています。</p> <p>幼児クラスでは、外部講師による体操・英語を実施するほか、独自のワークで文字や数 に親しむ活動もあり、幼児期の遊びと保護者ニーズの高いプログラムをバランスよく保 育に取り入れています。</p>
--

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月26日（契約日） ～
--------	-------------------

	2022年1月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

◎総評

◇特に評価の高い点

◆子どもたちは、のびのびと主体的に活動しています

職員は、応答的な関わりを大切に、信頼関係を築くことで、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、子どもが主体的な活動ができるよう援助しています。子どもたちが自分の気持ちを表現し、発言・発表できる機会を作って年齢に応じて意見を伝えるだけでなく、他の子どもの意見を聞き、相手の気持ちを理解できるよう働きかけています。このような保育活動の中で普段から活発に意見を伝え、子どもの思いが様々な活動に繋がっています。例えば、ハロウィンの準備の中で、5歳児のお化け屋敷をしたいという意見から、みんなで協力して「お化け屋敷」を制作して、3、4歳児を招待しました。また、5歳児の提案でお買い物ごっこから発展した「お店屋さんごっこ」では、3、4歳児も加わり役割分担をして互いに教え、教わり異年齢で楽しんでいます。このように、保育士が子どもたちの興味・関心や言動から活動がひろがるよう援助することにより、子どもたちはのびのびと主体的に取り組んでいます。

◆一人ひとりの子どもを尊重した子どもの姿をベースにした保育を目指しています

施設長は、日々の保育の中で職員に保育士主導でなく子ども主導の保育になるよう、子どもの姿をベースにした保育ができるよう伝えていきます。クラスミーティングでは活動を振り返り、子どもの取組を次につなげるよう話し合っています。会議で施設長は、クラスの振り返りの気づきやキーポイントを紹介することにより、他の保育士も気づきを得て次の活動に活かしています。また、職員もクラス毎の発表では軸となる点をアピールして子どもの姿を伝え、他者の意見を聞き次の改善につながるよう話し合いを重ねています。

このような保育の中で、子どもたち自身がそれぞれの子どもの個性を受け入れ、安定した園生活を送っています。

◆保護者との信頼関係を深めることに取り組み、共に子どもの成長を見守るよう努力しています

園は保育園向けアプリの連絡帳を活用したり、降園時にその日の保育内容や様子を伝えて保護者と情報共有を図っています。さらに、新たな取組として、ドキュメンテーション（保育の見える化のツール）で日々の保育の様子をクラス毎に写真で伝えることにより、コロナ禍で対面できない中でも保護者が保育園や保育士を身近に感じてもらえるような結果、会話にも広がりを生む成果が出ています。誕生会などは園全体のドキュメンテーションの写真で配信して、保護者に活動の様子を伝えていきます。また、行事等の取組は目的や方向性を保育園向けアプリで伝え、園の保育活動の理解を得る取組をしています。懇談会はコロナ禍のため、一年の流れを文書にして配布し、個人面談を実施して理解を得るよう努めています。個人面談は、仕事後の時間を考慮して職員のシフトを変更して対応しています。保護者には何時でも小さなことでも相談を受けることを伝え、信頼関係を築くことを心掛け、子どもの成長を共有できるよう支援しています。

◇改善を求められる点

◆地域との関わりを深めるための取組が期待されます

中長期計画に地域交流の推進を掲げ、地域ニーズに応じた交流事業や近隣施設との交流などを計画しています。日常的には散歩の際に挨拶を交わすなど、地域の方とは良好な関係が築かれています。コロナ禍で行事等での地域との交流は実施できていません。また、非常時には、地域の要請に応じて開放する準備があるとしていますが、自治体や地域などとの連携はこれからの課題です。今後は、災害時などに地域と連携して助け合う体制を作るなど、地域との関わりを深めるための取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

2019年度の開園から、これまでに積み重ねてきた園運営・保育の振り返りと評価の機会と捉え、開園三年目となる今年、第三者評価を受審致しました。

保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。感謝申し上げます。

評価を進める過程で、職員と共に園運営・保育内容一つひとつにじっくりと向き合い、改めて考える時間は、大変貴重でありました。確かな手応えを感じる項目もありましたが、より理解を深めたい側面や、改善が必要な事柄が明確になりました。

評価機関の皆様には様々な角度から園全体を見ていただき、時には厳しく、時には私たちの思いを感じていただき、ご指摘をも合わせて今後園として歩むべき道筋が見えてまいりました。

『地域に根差し、保護者と共に歩む園運営』

『子どもたちの無限の可能性を信じる保育理念』

『新保育所保育指針に示される「個々に合わせた応答的な関り」と「子ども主体の活動」を軸にした保育内容』これらを三つの柱とし、園の目指すべき姿として日々歩んでまいります。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり